

「国際対応も重要課題」 黒川学術会議会長が会見

—副会長3人も決まる—

記者会見に臨む黒川日本学術会議会長



新体制でスタートした学術会議（第20期）の会長に選出された黒川清氏は、総会初日の記者会見で次のように語った。

19期も会長をつとめており、17期、18期の活動もしっかりとしていたので、具体的に何が課題で、どのよ

うなことをしていかなければならないかは理解しているつもりだ。ただ、学術会議は70万人といわれる科学者コミュニティの代表機関として、国内での活動はもとより、国際的にも非常に注目されているので極めて責任は重いと感じている。

・活動の柱としては第一に、国内の科学者コミュニティの問題として、社会に対して責任ある自律性を持った科学者コミュニティは何をすべきなのかという議論を深めていくこと。第二に、科学・技術その他の様々な政策に関して、提言を行い、社会に選択肢を提供すること。第三には、ますますその重要性が認識されつつある国際対応にどうコミ

ットメントしていくかということ。こうした活動を今後とも展開していくつもりである。

新会員が大幅に増えたので、総合科学技術会議との経緯を含め、これまでの議論を踏まえた学術会議に対する認識やその目的をできるだけ早く共有したい。

総会第二日には今期から一名増加した副会長の指名が行われ、活動の三本柱にそれぞれ対応して、浅島誠 東大院総合文化研究科教授（生命）、大垣眞一郎 東大院工学系研究科教授（理工）、石倉洋子 一橋大院国際企業戦略研究科教授（人文）が決まった。